

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a	◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	入学センターは、本大学における入試の実施にかかわる業務を総合的に管掌し、入試制度の改革・改善及び学生募集の企画・広報を行う。特に全学部統一入試については、実施主体となる。また、学部等関係部署に係る入試業務の支援・調整等を行い、当該業務の効率化・一元化を図ることを目的とする。 入学センターの目的については「明治大学入学センター規程」第2条に規定されている。 全学部が参加し全国8会場で実施する全学部統一入試及び本学キャンパスで実施する大学入試センター試験等の全学部に係る入試について、各個別実施委員会（全学部統一入学試験実施委員会、大学入試センター試験実施委員会）及び各学部と連携・調整を図りながら実施しており、理念・目的に合致した業務実績を有している。また、学生募集活動（入試広報）においても、全学的に教職員の協力を得ながら出張講義（90件）、高校訪問（25件）、大学説明会（288件）、進学相談会（148件）、入試説明会（74件）及びオープンキャンパス等の企画・運営を行っており、2007年度から11カ年にわたり10万人を超える志願者を維持している。2017年度入試においては志願者数が113,507名で、一般入試志願者数全国4位となっている。このことは、単に数量的な事象と捉えられるだけでなく、各学部における優秀な人材を受け入れるための入学者選抜に資しており、入学センターの理念・目的に合致している。				
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a	●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	入学センターでは、入試実施業務全般及び学生募集活動（入試広報）計画について、入学センター運営委員会で検討を行っている。全学部統一入試、一般選抜入試、大学入試センター試験及び同試験利用入試、スポーツ特別入試等を実施した後は、入学センター運営委員会、教務部委員会、スポーツ特別入試委員会と連携し、結果及び反省点の検証を実施し、次年度に向けてフィードバックしている。				

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか							
a	◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	入学試験の実施に係わる業務を総合的に管掌し、入学試験制度の改革・改善及び学生募集の企画・広報を行うとともに、学部等関係部署に係る入学試験業務の支援・調整等を行い、当該業務の効率化・一元化を図ることを目的に設置している。					

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください				当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(4)教員の資質の向上を図るための方策を講じているか							
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性							
b	●教育研究，その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 （※）社会貢献，管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては，「基準4」（3）教育方法で評価します。 【600～800字】	入学センターでは，年1回，外部講師を招いて入試動向等をテーマとする「入学センター主催講演会」を実施し，学内における入試分析や入試広報に供している。2016年度は6月に開催し，おもに各学部の教務主任や入試業務担当者が出席した。講師は，学校法人河合塾教育情報部長で，「2016年度入試結果分析と大学入試の新しい動きについて」をテーマに90分の講演会を実施し，59名の参加があった。					

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目		現状の説明		評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか							
求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表							
a	◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を定めていること。 【約200字】	＜「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示＞ 各学部、各研究科において「入学者の受入方針（アドミッション・ポリシー）」を定め、「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準」を明示している。各学部の入学者の受入方針は「教育方針と教育目標」及び「入学志願者に求める高校等での学習への取組み」の2項目で構成している。 各研究科では、博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程のそれぞれで定めている。法科大学院においては、「本法科大学院の理念と求められる人材」「対象とされる受験者」「入学試験における留意点」の3項目で構成し、専門職大学院の各研究科においては、「受験者に求められる資質」「対象とされる受験者」「教育の方法」「入学試験における留意点」の4項目で構成している。					
	◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約200字】	入学者の受入方針の公表について、学部は「入学試験要項」に、大学院は各研究科の学生募集要項に示し、加えて大学ホームページ並びに学部及び研究科ホームページにおいて公開し、受験生を含む社会に幅広く公表している。また、明治大学ガイドブックとセットで配付する「入試データブック」にも大学ホームページのURLを表紙に記載することにより、入学者の受入方針の周知に努めている。 さらに入学者の受入方針を具体的に説明する工夫として、学部の一般入試問題はオープンキャンパスや地方都市で開催される明大フェスタ（進学相談会）などで閲覧に供し、具体的に学ぶべき内容を示している。情報コミュニケーション学部、国際日本学部及び総合数理学部においては、受験生向けに一般選抜入試の「出題のねらい」をホームページに公開しており、試験科目ごとにどのようなことを学んでおく必要があるのかを分かりやすく公開している。					
障がいのある学生の受け入れ方針と対応							
b	●該当する事項があれば説明する 【約200字】	障がいのある入学者の受入方針については、「大学入学者選抜実施要項（文部科学省高等教育局長通知）」に留意し、各入学試験要項において「受験及び修学における配慮について」の項目を設け、「身体等の機能に障がいがあり、志願者及び修学上配慮を必要とする受験生には事前に問い合わせを行うこと」をはじめとした4点の事項を記載している。このことにより、学部においては入学センター事務室宛に、志願者本人から具体的に必要な配慮事項が記載された「配慮申請書」が提出され、志願者の障がいレベルや入試実施・入学後の配慮要望への可能な対応について、当該志願者に不利益が被らないよう最大限考慮し、志願学部における受験及び在学中の修学対応等の確認・審議を行ったうえで、大学としての可能な限り対応できる態勢を志願者本人に伝えている。その可能な対応を理解されたうえで、志願者が受験を希望した場合、当該入試の受験が決定し配慮措置が取られる。大学院においても、志願者から出願研究科へ申し出があった場合は、学部に合わせて対応している。					

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目		現状の説明		評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか							
a	●学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。 （公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか） 【約400字】	各学部教授会では、入学者の受入方針を踏まえ、入試別入学者選抜方法（試験科目等）を決定し、公正かつ適切に入学試験を実施している。本学の学部入学試験制度は、「一般入試」「特別入試」「推薦入試」に区分されている。入学定員の約7割を一般入試で募集しており、残りの約3割を特別入試と推薦入試で募集している。 一般入試は、「一般選抜入試」「全学部統一入試」「大学入試センター試験利用入試（前期・後期日程）」で構成している。 特別入試は、「AO入試」「自己推薦特別入試」「外国人留学生入試」「スポーツ特別入試」等の多岐にわたる入試制度を設け、多様な価値観や様々な学習履歴をもった学生を受け入れている。 推薦入試は、「指定校推薦入試」と「付属校推薦入試」で構成され、指定校推薦入試については8学部で実施している。 学生募集や入学者選抜の方法の策定について、入学者の受入方針に基づき過年度の入試状況を鑑みながら、一般入試は各学部教授会で検討のうえ、入学センター運営委員会にて全学的に審議・決定している。推薦入試及び特別入試は学部教授会ごとに審議・承認している。 各学部一般入試の入試要項は、一般選抜入試・全学部統一入試・センター試験利用入試をまとめて「入学試験要項」として作成し、志願者に対し分かりやすいものとなるよう留意し作成され、一般入試の合否判定の方法についても明記している。また、入試データブック（冊子）及びホームページの「入学試験Q＆A」において、合否判定の基準や受験する際の注意事項を掲載している。なお、得点開示については、一般選抜入試及び全学部統一入試受験者のうち不合格者に限り実施しており、選抜基準の透明性を確保している。入試結果に関しては、入試データブックにおいて合格者数などを開示し、透明性の確保に努めている。					
	入学志願者と合格者の状況	2017年度大学入試の実施状況は、一般入試が113,507名であり特別入試が2,091名、推薦入試志願者を除く志願者合計で115,598名であった。2007年度から10万人以上の志願者を得ており、一般入試については2012年度以降志願者の微減傾向が続いていたが、2015年度入試以降3年連続で増加した。また、各学部の志願者について、一般選抜入試は2.1～9.9倍の範囲の競争率であり、総合数理学部が一番高い。全学部統一入試は2.3～16倍の競争率であり、政治経済学部が一番高い。センター利用入試前期日程は1.8～8.4倍の競争率であり、政治経済学部が一番高い。同後期日程は2.5～17倍の競争率であり、理工学部が一番高い。男女別志願者については、男子74,353名（66%）、女子39,154名（34%）であり、2017年5月1日現在の1～4年生の在学生31,004名における男女比（女子10,894名：35%）とほぼ同じである。女子志願者が5割を超えている学部は、文学部（56%）、国際日本学部（68%）である。なお、出身学校所在地別の合格者数は、一般入試全体22,768名のうち首都圏（1都6県）合格者が17,580名であり、首都圏で77%を占めている状況である。					

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
	学生募集活動	①オープンキャンパス 2016年度に駿河台キャンパスでは8月上旬に計3回、生田及び中野キャンパスでも同様に計2回実施し、45,674人の参加者があった。なお、来場者にアンケートを実施しており、アンケート提出者数（高校3年生及び既卒生）に対する受験者数（のべ人数）の割合は68.4%と前年比8.7ポイント減少した。 ②首都圏高校及び地方の高校対象の明治大学説明会 6月の第一土曜日に、本学に一定数以上の志願者がある首都圏の高校、地方重点校及び学部が希望する高校の進路指導担当教諭を招待し、本学の入試概要及び変更点等の情報提供を行っている。高校生への進路指導に役立ててもらい狙いがあり2016年度は312校から参加があった。	①安全確保のため、2016年度から駿河台オープンキャンパスに事前登録制を導入し、安全面を確保するとともに来場者は希望する行事に参加できるようになった。	①駿河台オープンキャンパスに事前登録制を導入したため、2016年度の来場者数は前年度と比較し13,571名減少した。		①駿河台オープンキャンパスの事前登録制において、事前登録可能者数を緩和する予定である。	
		③学外で実施される進学相談会 新聞社等の主催によるもので、アドミッション・アドバイザーを派遣している。2016年度は全国148か所で実施し、高校3年生及び既卒生のアンケート提出者のうち実際に受験した者の割合は51.6%と前年比3.4ポイント減少した。 ④教員が出張して講義を行う出張講義 主に高校1・2年生を対象として、模擬授業を実施している。派遣に際しては全学部統一入試実施地域、学部の指定する高校など、一定数以上の志願者がある高校及び一定数以上の合格者がありながら入学手続き率が低い高校とし、2016年度は90件実施した。					
		⑤高校や予備校での大学説明会 受験生や高校1・2年生を対象として、年間を通し、アドミッション・アドバイザーが説明を行っている。2016年度は288件実施した。高校3年生及び既卒生のアンケート提出者のうち、実際に受験した者の割合は46.7%だった。また予備校での実施についても、主に10月と11月にアドミッション・アドバイザーが行っている。2016年度は74件実施した。高校3年生及び既卒生のアンケート提出者のうち実際に志願したものの割合は83.2%と非常に高い。 ⑥主に全学部統一入試の地区試験場を設けている地域の高校訪問 全学部統一入試の地方会場となる6地区（札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡）を中心として、本学に進学実績の多い高校の進路指導担当教諭をアドミッション・アドバイザーが直接訪問している。2016年度は25件実施した。 ⑦出張オープンキャンパス「明治大学フェスタ!」の開催 全学部統一入試のPRを主な目的として、地方試験会場である6地区において本学単独のミニオープンキャンパスを実施している入試の時期に近いこともあり、高校3年生及び既卒生のアンケート提出者数のうち実際に志願した者の割合は115.8%と非常に高い。					

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「効果が上がっている点」 に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
		⑧アドミッション・アドバイザー活動，学生募集に関わる研修会の開催 アドミッション・アドバイザーには「初級者向け」，「経験者向け」に分かれて研修会を開催し，本学の最新の状況を共有すると同時に，前年度の学生募集活動の報告と，当年度の学生募集計画についての共通認識を図っている。2016年度は156名が担当した。アドバイザーからの報告は，入学センターにおける学生募集に関する検証に役立てられ，その検証結果は，前出の「研修会」において活動報告として説明され，また活動計画として学生募集活動の改善のために貴重な資料となっている。					
		⑨学生募集に関わる情報の提供 高校生，受験生，保護者，高校教員へ伝えるべき内容については，「入試データブック」の他，「明治大学ガイドブック」，「学部ガイドブック」等に，大学及び学部，研究科の特徴，教育学習内容や入試制度等をまとめて掲載している。また，「入試総合サイト」の開設等ネット配信による入試情報の公開に努めている。 リクルート進学総研「進学ブランド力調査2016」における「関東エリアの高校生」の志願したい大学ランキングでは，8年連続で1位になった。					
	●入学者選抜実施のための体制を適切に整備しているか。	入試本部体制については，一般選抜入試では，当該学部の学部長を試験本部長とした学部執行部を中心とし，入学センター長（教務部長）及び副センター長（副教務部長）も加わった本部体制を構成し，厳正に実施している。全学部統一入試本部体制は，統一本部長を学長，統一入試副本部長を教務部長とし，全国各地区試験場本部等との連絡・調整及び指示を行う。なお，各地区の試験場本部には本部長をはじめ各種責任者を配置し，適切な責任体制を明確にしている。					

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生選抜が実施されているか、定期的に検証を行っているか							
a	●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	入学者の受入方針の制定と見直しは、各学部・研究科において学部教授会・大学院研究科委員会等により、必要に応じて行っている。ポリシーの見直しを行った場合には、各学部は教務部委員会、各研究科は大学院委員会に報告し、全学的な確認を行っている。 学生募集活動の検証について、学長を統括責任者とする入学センターが行い、前年度の実績に基づき費用対効果の観点から、進学相談会や大学説明会の派遣先の選定を行っている。検証結果は、毎年5月と10月に開催する「アドミッション・アドバイザー研修会」で情報共有している。2016年度は、志願者数減少傾向が強い県をピックアップし、当該県については高校における説明会や進学相談会に積極的に参加すると共に、削減された予算内で有効な広報を実施するため、遠方については主に高校訪問の実施について集約・見直しを行った。 入学試験制度に関わる検証について、一般選抜入試および特別入試については、各学部が責任を持ち検証を行い、必要に応じて改廃・変更を行っている。	受験生全員が必修となる外国語を1時限目へ変更したことにより、交通遅延等が発生した場合に時間割繰下げ等を統一して運用することができ、大きな混乱がなく試験を実施することができた。				
	2016年度に、どのような検証を行い、検証の結果、どのような課題があったのか説明してください。また、その課題について、どのような改善を行ったのか、内容がわかるよう記述をお願いします。	全学部統一入試に関する検証は、学長を委員長とした「全学部統一入学試験実施委員会」にて必要な検討事項を総合的に審議し、前年度の課題の解決を図っている。過年度の雪害を受けて、交通遅延等が発生した際の対応方法を改善した結果、同入学試験制度において試験開始が1時限目からの受験生と2時限目からの受験生が混在することによる試験実施・運用の複雑さが明らかになってきたため、試験時間割の変更を行った。 また、同入学試験制度は、地方の受験者層の獲得を目的として実施しており、過去5年間平均して、一般入試全体の17%にあたる18,000名の志願者があるが、関東以外の地方出身の志願者は、一般入試全体においては24%のところ、全学部統一入試においては約32%と地方出身の志願者を一定数確保している。 検証に必要な情報は入学センター事務室で収集している。検証結果等の学内での周知については、教務部長が教務部委員会にて報告し、教務主任を通じて各学部教授会で周知している。					

2016年度 入学センター 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1)大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか							
a	◎自己点検・評価を定期的の実施し、公表していること 【約400字】	内部質保証の方針と手続きの明確化について、入学センターに係る業務全般について、入学センター運営委員会で審議・検討を行っている。入学センターの業務に関する自己点検・評価についても、全学部統一入試、一般選抜入試、大学入試センター試験及び同試験利用入試、スポーツ特別入試等を実施した後は、入学センター運営委員会、教務部委員会、スポーツ特別入試委員会と連携し、入試結果の検証及び入試業務を中心とした反省点の検証を行い、次年度に向けてフィードバックしている。 また、各種の学生募集活動（入試広報）では、その実施対象に対して、アンケートをとっている。その結果を各委員会で報告し、教学からの意見を聴取し、アンケート結果とともに参考にしながら、次年度の実施における改善事項を検討している。 これらの内部質保証の検証は、入学センター運営員会内に設置されている「入学センター自己点検・評価委員会」において行っている。 構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識の徹底について、入試業務は、学校教育法及び同施行規則に規定される出願資格をはじめ、関係法規を遵守する業務、個人情報の取扱い及び守秘義務を伴う業務が多いことから、最新の情報を収集し、認識を深めている。なお、コンプライアンス意識については、委員会及び日々の業務を通じて再度注意を喚起し徹底している。					
(2)内部質保証システムを適切に機能させているか							
a	●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ● 文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	委員会における諸活動・構成員の各役割・担当業務において次年度以降の入試実施業務、入試広報業務における計画立案に際して、自己点検・評価結果を反映させている。 学外者の意見の反映について、入学センター主催の講演会等を通じて、予備校等の講師を招き、他大学の入試改革状況、明治大学の現状の位置付け等について、いわば、学外者による第三者評価を受けている。また、6月の第1土曜日に開催される高等学校教員を対象とした明治大学説明会で、本学に対する意見・要望事項を承っている。以上のような点検・評価の取組みから得られた意見、提言については、次年度の入試に反映するシステムとしている。					